

e-Learning

2009年2月18日(水) 文責 有田和臣

e-Learningの現状と今後について、意見交流を行った。「e-Learning」担当有田が他委員会出席で前半不在のため、メディア教材開発・知財課の瀬澤課長による資料説明から始められた。

資料説明 メディア教材開発・知財課（以下、「メディア課」と略）

* 利用状況

2005年秋学期から暫定的に運用しているe-Learningシステムは、利用教員・科目数が、学期を重ねるごとに数倍の単位で増加し続けている。2007年秋学期ごろより、文学部、社会学部、社会福祉学部の教員の利用増加が目立つ。中でも専門科目・ゼミで利用増加が見られる。しかしそれでも全体から見れば少数にとどまっている。

* e-Learning システム 2008 年秋学期教員・学生アンケート

教員からは、メリットとして、学生の取り組みの様子を把握できた、課題提出確認と、その課題へのコメント返信が簡便化された、教材箱の利用で授業進行がスムーズになった、等があげられた。デメリットとして、利用開始日の遅さ、画面のわかりづらさ、携帯電話からの投稿機能がない、等が挙げられた。

学生からは、メリットとして、フォーラムによる意見交換の面白さ、講義概要の把握のしやすさ、予復習のしやすさ、課題をこなす習慣がついた、等が挙げられた。デメリットとして、携帯からの読み書きができない、大学内のパソコンが満席で課題ができないことがある、等が挙げられた。

要望として、教員から、使用手順の簡略化、学生からは、携帯電話からの利用を可能にすること、対面授業との使い分けの明確化等が出された。

意見交流

* 機能の充実について

室員： 機能的にはすでに十分なものを持っているのではないか。これ以上はなくてもよい。

有田： あとは使い勝手を洗練していきたい。自分が設定方法を理解していないだけかもしれないが、フォーラムを一度に全体を閲覧できる簡便な形式にして欲しい。何度もクリックしないと書き込みを読めないのでは、利用者は増えないだろう。

室員： 自分は、書き込みを一覧できるような設定にすることで、うまく運用できているように思う。

瀬澤： 確かに、そのような設定も可能になっている。

有田： また、ウェブ上でレポート提出を受ける場合、誰が提出済みかを簡便にチェッ

クできると、使用する教員が増えるだろう。

瀬澤： 提出者一覧を表示することも可能になっている。設定次第で、便利な使い方ができるので、いつでも相談に来てほしい。

室員： 携帯・モバイルからの読み書きの要望も強い。アンケートなどできると便利だ。全学生にノートパソコンをもたせている大学もあるが。

瀬澤： 携帯使用の可能化も検討中ではあるが、通信料金の学生負担、サイズの大きな資料のやり取りができない、等の問題もあり、使用は必要最小限な場面に抑えたい。

* 学生ポータルサイトについて

室員： 大学生活に必要な情報を集約した学生ポータルサイトの設置を望みたい。そこを見れば必要な情報がすべて得られるような。韓国では成績も紙ベースでは配布しない。履修登録などもウェブ上でできるように。非常に電子化が進んでいる。

有田： 卒業および免許取得に必要な科目の一覧と、既得・要取得単位数、レポート提出、成績、時間割、呼び出しなどの掲示情報、等、個々の学生に必要な情報が集約された学生ポータルサイトができれば理想的だろう。

* TA 制度その他について

瀬澤： e-Leaning システムをさらに広く運営して頂くために、先生方への広報にも力を入れたい。先生方が使いたくなるような目玉をつくりたい。

室員： ウェブ運営が進めば教員の負担も問題になろう。TA 制度の整備が必要だろう。上回生が下級生に教えるシステムの整備、学科はりつけの TA の設置、TA と奨学金の連動制度の整備、等を考えるべき時に来ているのではないか。

ポケベル時代の学生は、不便な道具で頻繁に情報を交換し合った。今は携帯電話を通じて、決して使いやすいとは言えない数字ボタンを使って頻繁にメールのやり取りをする。小さな画面で、ウェブの閲覧・書き込みまで行う。つまりウェブシステムの本質は、ネットワークでつながっているという事実である。その他の不便さは、実は大きな問題ではない。その点を生かした新しいシステム利用の視点はないものか、今後も模索していきたい。

まとめ

本研究会を通して明確化された、本学が e-Leaning システムを運用するにあたって検討していくべき課題は以下の通りである。

- (ア) 機能的には、必要十分なものに精選され、練れたものになってきている。今後はさらなる使用手順の洗練が望まれる（直感的に理解できる画面・より少ない手順を望む）。
- (イ) 便利な機能も、知られていないために利用者数が少数にとどまっている状況が伺える。学内広報活動にも力を入れたい。
- (ウ) システムの機能そのもののみならず、TA 制度の充実など、システム運用に伴う教員負担を軽減するための周辺運用環境の整備が望まれる。
- (エ) 先進的な学生ポータルサイトの開設なども、将来的には視野に入れたい。

これらの点について具体化した計画を立てることが今後の課題である。